

地域資源利用学特論演習 (2単位)

担当者氏名 中村貴彦、藤川智紀

◆学習・教育目標

新しい農業技術に対応できる生産性と保全性の高い圃場整備手法、および貴重な地域資源である用水の合理的・節水的な畑地灌漑手法について学び、議論することにより、地域資源利用に関する実験や研究における基礎的な素養を身につけることを到達目標とする。なお、この科目は必要に応じてバイリンガル（日本語と英語）で実施する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

地域資源利用	水田の基盤整備	畑地灌漑計画	節水灌漑手法
--------	---------	--------	--------

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	新しい稲作技術と水田の圃場整備（第1～2週）	わが国の圃場整備の歴史および乾田直播栽培のための基盤整備のあり方	本授業のねらいは、持続性の高い農業の実現に向けた、最先端の農業技術を理解することにある。準備として、わが国の食料自給率および農地利用を中心とした農業の現状を捉えておく必要がある。なお、配布する資料を熟読しておくこと。
2	畑地農業の実態と畑地灌漑計画（第3～5週）	わが国の畑地の特徴および畑地灌漑の特徴と役割、畑地灌漑事業紹介	
3	水資源利用（第6～7週）	土壌中の水資源の有効利用	
4	未利用バイオマス利用（第8～9週）	未利用バイオマスの利用の現状と問題点についての演習	
5	食料自給力と地域資源（第10週）	食料自給力を高めるために必要な地域資源に関する演習	
6	農地・農村の物質循環と環境負荷の削減技術（第11～15週）	農地と農村における肥料要素および炭素・水循環の理解と環境影響評価手法の習得	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

農地環境工学／山路、塩沢／文永堂（2008年）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポート 70%、講義中のディスカッションへの参加状況 30%で評価する

◆その他受講上の注意事項

関数電卓、英和辞書、配布された資料等を毎回の授業に持参すること。講義内容に関して質問がある場合は、該当する教員へメールで連絡すること（中村：ntaka@nodai.ac.jp、藤川：t3fujika@nodai.ac.jp）。